

## 会 議 録

会議の名称	平成30年度 第1回 和泉市生涯学習推進委員会
開催日時	平成31年2月18日（月） 午前10時から
開催場所	和泉市役所 3号館3階 委員会室
出席者	別紙名簿のとおり（8／10名出席）
会議の議題	<p>■案件</p> <p>①平成30年度いずみ市民大学の実績報告について</p> <p>②平成31年度いずみ市民大学のカリキュラム改編について</p> <p>③文化芸術振興条例について</p> <p>■その他</p>
会議の主旨	
会議録の作成方法	<p><input type="checkbox"/>全文記録</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>要点記録</p>
記録内容の確認方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>会議の議長の確認を得ている</p> <p><input type="checkbox"/>出席した構成員全員の確認を得ている</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
その他の必要事項	

■ 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

教育長挨拶

案件

①「平成30年度いずみ市民大学の実績報告について」

事務局説明

平成30年度のいずみ市民大学まちづくり学部の受講状況について、各学科25人の定員に対する受講者数および充足率は、エリア学科が12人で48%、テーマ学科が20人で80%。全18回の講義中、13回以上受講し、卒業された方はエリア学科8人、テーマ学科12人、合計20人。

教養学部は、前期6講座、後期6講座を実施、前期の各講義の定員50名に対する申込者数は、

- ・「ニュース・事件で考える法」は19人
- ・「源氏物語をあちこちに読む」は49人
- ・「昭和歌謡の文化社会学」は39人
- ・「心理学から見た現代」は49人
- ・「司馬遼太郎の翔ぶが如く解説」は72人
- ・「ピアノ音楽をめぐって」は63人の合計291人。

後期各講義の定員50名に対する申込者数は、

- ・「生老病死と祈り」は14人
- ・「水とヴェネツィアの歴史」は58人
- ・「市民のための証券市場入門」は43人
- ・「水滸伝の醍醐味を味わう」は43人
- ・「仏像探訪」は72人
- ・「ライブ形式で楽しむジャズピアノ講座」は72人の合計302人。

委員：教養学部で定員を超える申込者がいる講座は、そのまま受け入れているか。

事務局：教室の収容人数72人までは先着順で受講可能とし、73人目以降はお断りしている。

委員：まちづくり学部でエリア学科の申込が伸び悩んでいる。エリア学科の受講生からヒアリングなどを実施しているか。

事務局：事業の委託先が聞き取り等を実施していると思うが、まだ報告は受けていない。

委員長：1年目はエリア学科の充足率は100%に達し、受講率もエリア学科の方が高かった。卒業した人数もエリア学科の方が多かった。今回は逆の結果になっているので分析していただきたい。

委員：エリア学科で勉強して、その後ステップアップとしてテーマ学科で学んでいただけたら良いと当初考えていた。エリア学科の受講者が減るとその後テーマ学科に行く人が少なくなってしまう。エリア学科の受講生が増えることが底上げになるので、気になっている。

委員：まちづくり学部スタートの時、委員長が各自治会や社会福祉協議会など各種団体に宣伝され、受講者数が増加した。そのような活動をしてはどうか。

委員長：大学の立ち上げまで5年位関わり、1期、2期の時は十数回、様々な会合でPRさせてもらった。定員割れをおこさないよう、是非とも今後も続けてもらいたい。

委員：次の案件は次年度の事がテーマになっている。1期、2期で熱心に受講された方が卒業し、真空状態になっている可能性もあり、次のカリキュラムを考え、てこ入れしていく時期が今なのだと思う。それを含めて次の案件を考えてはどうか。

## ②「平成31年度いずみ市民大学のカリキュラム改編について」

### 事務局説明

平成28年度にスタートしたいずみ市民大学まちづくり学部は、エリア学科、テーマ学科各25人を定員として募集し、平成28年度は定員を上回る52人の申込があったが、平成29年度、平成30年度においては31人、32人と定員の6割程度の申込となっている。

まちづくり学部が4年目に入ることを機に、より多くの市民の皆様にはまちづくり学部を受講していただき、また、過去の受講者にも更に学びを深めてもらえる内容にすることを目的に、カリキュラムの一部変更を検討した結果、エリア学科、テーマ学科の2学科から、平成31年度から、まちづくり本科、まちづくりスキルアップ学科の2学科に再編することとした。

まちづくりスキルアップ学科のコーディネーターは、認定NPO法人サービスグラントの堀久仁子氏にお願いし、過去3年間のエリア学科及びテーマ学科のコーディネーター宝楽陸寛氏には、まちづくり本科及び2つの学科全体のコーディネーターを引き受けていただいた。

また、講義時間中の子どもの保育について、従来は1歳6ヶ月以上小学校入学前までを対象としていたが、学友会のメンバーからの要望により調整した結果、平成31年度から小学生も保育できることとなり、より受講しやすい環境となったものと考えている。

なお、桃山学院大学との連携講義については、まちづくり入門として和泉市の地域資源を掘り下げて学ぶ「泉州学 和泉の地域資源を通してまちづくりを考える」を教養学部の講座として新設し、まちづくり学部と併せて受講可能な日程で開講する。

教養学部前期は、「泉州学」に加え、「高齢社会を軽々と生きる」「源氏物語」「ピアノ名曲探訪」「地球の大きさから環境とエネルギーを考える」「シルクロード」の6講座を開設、3月8日金曜日から申込開始を予定している。

また、学友会の皆様の活躍を広く市民の皆様にご覧いただき、市民大学に興味を持ってもらうことを目的に、広報いずみ3月号の巻頭特集として市民大学の記事が掲載される。

委員長：まちづくり学部のカリキュラムについて、今まで桃山学院大学とコラボしていたフィールドワークが無くなっている。私自身受講して大変良い経験になったので惜しいと思う。どのような経過で無くなったのか。

事務局：カリキュラムについては、コーディネーターが講師の選定や授業内容を決定している。平成31年度のカリキュラムにフィールドワークが入らなかったのも、コーディネーターの判断によるものと考えているが、この委員会の意見はコーディネーターに伝達し、今後の講義の内容に反映できるか検討してもらう。

委員長：課外授業という扱いでも年数回実施すると良いと思う。桃山学院大学にも協力いただけたと思う。

委員：過去3年の問題点を明らかにした後で次のステップに進むべきだが見えてこない。今回提示された案でほぼ決まっていると思うが、この委員会は決まったものを承認するために開催するのか。途中の段階で話がほしかった。目的と方向性を示してもらわないと判断しにくい。

事務局：元々は委託先からの提案。生涯学習課との調整を経てコーディネーターを2人にすることになった経緯がある。

委員：カリキュラムの中身はどのように変わったのか。

事務局：今まで受講生からいただいた意見として、エリア学科とテーマ学科の違いが分かりにくいことと、全18回の講義は受講するのに負担が大きいとの声があった。今回、講義回数を18回から12回に減らすにあたり、桃山学院大学にお願いしていた分を教養学部に移し、残りの部分を自由に組み立ててもらった。また、新たに2つの学科を設けたのは、過去3年に受講された方にも来てもらえるような

ステップアップの学科を1つ設け、初めて受講する方はまちづくり本科という、分かりやすい学科区分にした。

委員：市民大学の中身を決定するプロセスについて、委託先、再委託先があり煩雑になっている。誰に意思決定権があるのか、間に入る人を減らして整理すべきで、決定に至るまでの過程が多いと思う。市民周知も遅れる。コーディネーターの宝楽氏が意思決定すると明確にし、宝楽氏に我々が話を聞けば済むが、そうはなっていない。手続をすっきりさせてもらいたい。

委員：委託先の意見がきっかけになったとの事だが、市民大学はこの委員会で生み出され、生涯学習課がそれを受けて実施しているのでは。この委員会や生涯学習課の方針を受けて実行すべきだが、委託先に任せているのでは。

事務局：今回はスタートから3年が経過していることと、受講者数が伸び悩んでいる状況において、見直す所がないか委託先に指示した。その中で、委託先から提案を受け、それに対して生涯学習課が意見を言う、という過程を繰り返した。

委員：3年という区切りで、カリキュラムだけでなく、どのように意思決定し運営していくか、手続きを簡素にしていくべきだと思う。

委員長：講義の数を18回から12回に減らしたことについて、多いほど出席できる機会があり、減らしてしまうと逆に出席できなくなるのではないか。また、当初の大学の目的が受講生に伝わらないということも考えられるのでは。一概に減らせば良いというものではないと思うので、検討いただきたい。

委員：教養学部は興味ある分野の話聞くだけと考えていたが、泉州学ができたことで、まちづくり学部の受講につながるような相乗効果が出れば、一つの大学として良いのではないか。教養学部の他の講座についても、まちづくり学部に興味が出るような連動があれば良いと思う。

### ③文化芸術振興条例について

#### 事務局説明

文化芸術振興条例については、平成27年5月に策定された「和泉躍進プラン（案）」及び平成28年9月に策定された「第5次和泉市総合計画」に、文化芸術振興条例の制定を検討する旨が掲げられている。

生涯学習課では、大阪府内の自治体に照会等を行い、検討を進めていたが、国において文化芸術振興基本法を一部改正した「文化芸術基本法」が平成29年6月に施行され、今後の文化芸術政策の目指すべき姿や以後5年間の基本的な方向性を定めた文化芸術推進基本計画（第1期）が策定された。文化芸術基本法には、都道府県及び市町村は、国の基本計画を参酌して地方の実情に即した文化芸術推進に関する計画を定めるよう努めることとし、計画その他の文化芸術の推進に関する重要事項を調査審議するための審議会を、条例で定めるところにより置くことができるとされている。

大阪府においては、国の法改正に先立ち大阪府文化振興条例が平成17年4月に施行、これまで3次をわたり文化振興計画を策定し、現在は平成28年度から平成32年度までを計画期間とする第4次計画の期間中となっている。大阪府では国の法改正・基本計画を反映した新たな計画策定の予定は無く、平成33年度を計画初年度とする第5次計画の策定の際に、国の基本計画の内容を盛り込んだ計画にする予定とのこと。

大阪府内自治体の条例制定状況は、昨年、大阪府が実施した調査によると、現在、府内33市9町1村中、大阪市、堺市、岸和田市、泉大津市など12市で文化振興のための条例が制定され、条例を制定した自治体は、条例の理念を実行に移すため、推進計画を策定し、計画の進捗管理等のための審議会が設置されている。

これらの状況を考慮したうえで、和泉市としての考え方は、現在、文化芸術の推進に関する計画は定められていないため、文化芸術基本法に基づき、何らかの形で計画又はこれに類するものを策定する必要があると考えている。しかし、文化芸術基本法では、条例制定や審議会設置の義務や計画策定までの期限は規定されていない。

和泉市では平成25年に策定した「第2次和泉市生涯学習推進プラン」に基づく取組みを進めているところで、生涯学習施策の推進に向けて本委員会も設置していることから、新たな条例制定・計画策定や審議会設置は行わず、他の自治体の計画策定状況も見極めながら、第2次和泉市生涯学習推進プランの後継計画を策定する際に文化芸術の振興を重点項目のひとつと位置づけ、生涯学習推進委員会において調査・審議を行うことにより、文化芸術の振興・発展に向けて取り組むたいと考えている。

委員長：別の審議会をつくらなくても、和泉市には生涯学習推進プランがあり、その中で生涯学習推進委員会があるので、包括的にこの委員会で審議すれば良いと思う。

委員：文化芸術について具体的にどのように取組むのか。

事務局：どのような取組みをするかはこれからの話だが、市として文化・芸術を盛り上げ、まちづくりにつなげたいと考えている。信太の森の話や池上曾根遺跡などの資源も活用する。

委員：和泉市の歴史や文化を掘りおこして広めることもこの場で検討すれば良いと思う。子ども達に和泉市の特徴を伝えていくべき。

委員：元々は戦前の反省から、行政が文化に口出しして良いのかということで、なるべく関わらなかったのが戦後。戦前は特定のイデオロギーを補強するため文化が利用された。なぜ教育委員会という組織で文化が扱われるかという、独立した組織で政治的な圧力を受けないようにしているため。それが、最近は文化を国全体で盛り上げていこうという話になっている。行政が文化に対して、どこまで何をするのかを考えるのに条例をつくるかつくらないかといったことが関係している。和泉市ではこの委員会で市民の声を聞き、市に対して提案できるようにしていきたいという事だと思う。大阪府も文化振興計画の見直しのタイミングとずれているとのことで、和泉市も推進プランの改定のタイミングを見ながら方向性を考えれば良いと思う。我々は受身ではなく主体的に提案していく、それが市の文化芸術の政策に反映されるということが必要だと思う。

委員：本市の推進プランは10年の計画期間だが、長いように思う。

委員長：他の和泉市のプランも大体10年スパンになっている。ただし、世の中の流れは速いので5年に変えようという声も上がってくると思うが。

事務局：基本的に計画は10年が一般的、ただし、途中で見直しはする。

## その他

委員：尼崎市でサマーセミナーという、誰もが先生、誰もが生徒になって授業を行う市民の学校的なイベントが開催されている。20年前に愛知県でスタートし、全国に広がっている。去年夏に尼崎市に見に行ってきたが、300講座開催され、市立の高校が会場になっていた。入って驚いたのは下は9歳から上は80歳台の人が講師をしていたこと。市民が持っている知恵や技術を披露し、聞きたい人が集まる。このサマースクールを和泉市で実施したいという動きが出てきており、準備をし始めたところ。そのうち皆さんに呼びかけていきたい。一度今年中にお試し版で実施したいと考えている。市民大学で学んだ人にも講師をしてもらいたいし、和泉市全体に広がってほしい。市民大学の学友会や青年会議所も呼んで盛り上げていきたい。

委員長：以上で本日の生涯学習推進委員会を終了します。

以上